

天神山の楠木

廿日市市郷土文化研究会 顧問 妹尾治人 さくらお 平成4年7月1日 第76号

天神山の楠木

妹尾治人

平成三年九月二十七日夜半に吹き荒れた台風十九号は、海水を巻きあげて塩の雨を降らせ植物に与えた被害は実にすさまじく、古老に聞いてもこんな事は初めてだと言うことで、廿日市市でも特に風のきつかった天神山（篠尾山とも言う）正覚院裏の楠木は葉が潮風で赤茶色となり、一ヶ月位のちに一枚残らず落ちてしまった。

例年だと楠木の葉は春の新芽のときまで青々としている筈なのに秋に落葉してしまい、昭和六十三年に枯れた天狗松に続いてこの楠木も枯死するのではないかと心配していたところ、春四月になんとか芽吹いてきた。

しかし、新芽が出たのは約半分の枝で残りは芽を出す力がないものと思われる。また、天満宮参道にあった棕木はこの台風で完全に枯死した。

台風十九号が廿日市市ほか沿岸部の植物に与えた影響は今までかつて例をみないもので、私の観察記録によりまずと、樹木では広葉樹が潮風に弱かった楠木、桜、梅、柿、栗、竹、いちじく、南天、ケヤキ、銀杏、紅葉、柳、樽、アカメガシワ、ハナズオウ、ミズ

キ、山椒、譲葉、ツツジ、サルスベリ等、ことごとく葉が枯れて落ちてしまった。

そして台風後の珍現象として山椒、紅葉、ケヤキ、サルスベリ等は十月の終り頃になって新芽を出し、その新芽が大きくなり一月になって美しい紅葉を見せてくれた。

また、春に咲く筈のハナズオウ、ミズキが年末に見事な花をつけ、桜、ツツジ、梅は例年になく狂い咲き現象があった。

秋野菜、草花の被害も大きく大根、白菜、シソ、ナス、百日草、コスモス等潮風にもまれて全滅した。そのため野菜が品不足となり白菜の緊急輸入がされた。

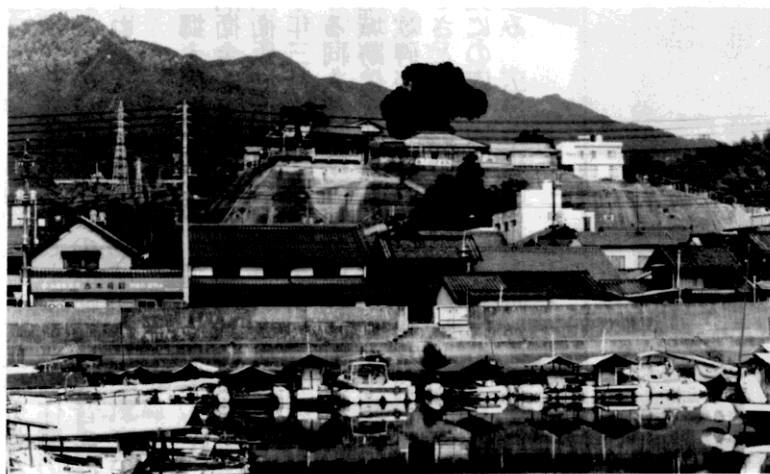
十九号台風は雨が少なく風が強かった為山の樹木は捻倒されたものが多く風当りの強かった所では半分以上が倒れた。

今回の台風は今までにない大きな被害を与えたが、樹木の生命力はすばらしいもので枯木のようになっていた竹も樹も春風にさそわれて、例年の如く芽を出し花を咲かせてくれた。

風当りが特に強く被害が大きかった天神山の楠木、地御前金剛寺塞の神横のハゼの木も樹勢は極めて悪いが、な

んとか新芽を吹いてくれたことは何よりの喜びで、これからも力強く成長してほしいものだ。

「春風に 篠尾の楠も 生きかえり」
（自然観察指導員）



天神山の遠望（平成元年）



2007/10